

防音壁の透明化、高架下利用および西側通路の
方針について

1. 防音壁の設置について

(1) 期待される透明板化の効果

新幹線からの眺望	・車両からの景観向上 ・地域の象徴アピール（牧場・駒ヶ岳・噴火湾・羊蹄山・アンヌプリ）
新幹線の見え方	・新幹線のシンボル性の向上



コンクリート製防音壁



ポリカーボネート製防音壁

実施例
180m透明化
自治体負担7,014万円

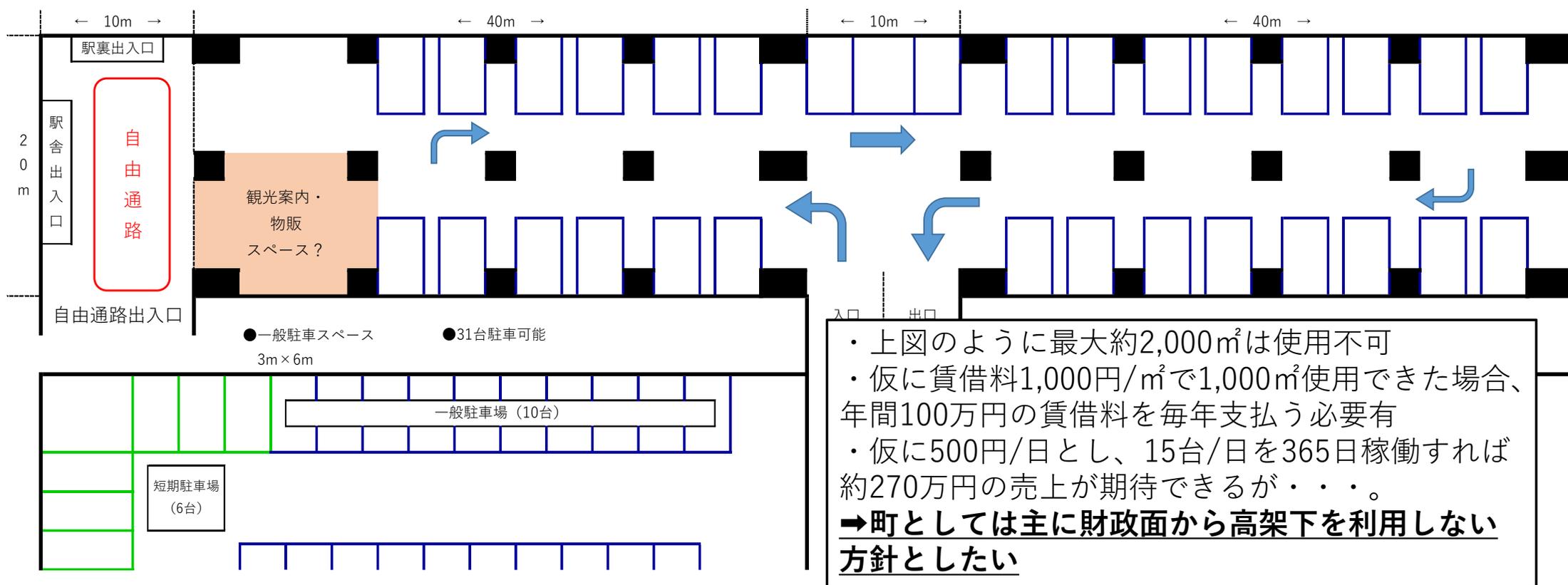


高架橋外観

- ・ 駅舎部分を除く明かり区間約5kmを全て透明化した場合、 $7,014\text{万円}/180\text{m} \times 5,000\text{m} = 194,833\text{万円}$ 約19.5億円を町で負担することとなる
 - ・ さらに更新費用等についても町での負担
 - ・ 投資効果を考えても町で負担することは極めて困難
- 町としては、防音壁の透明化はしない方針としたい**

2. 高架下利活用例

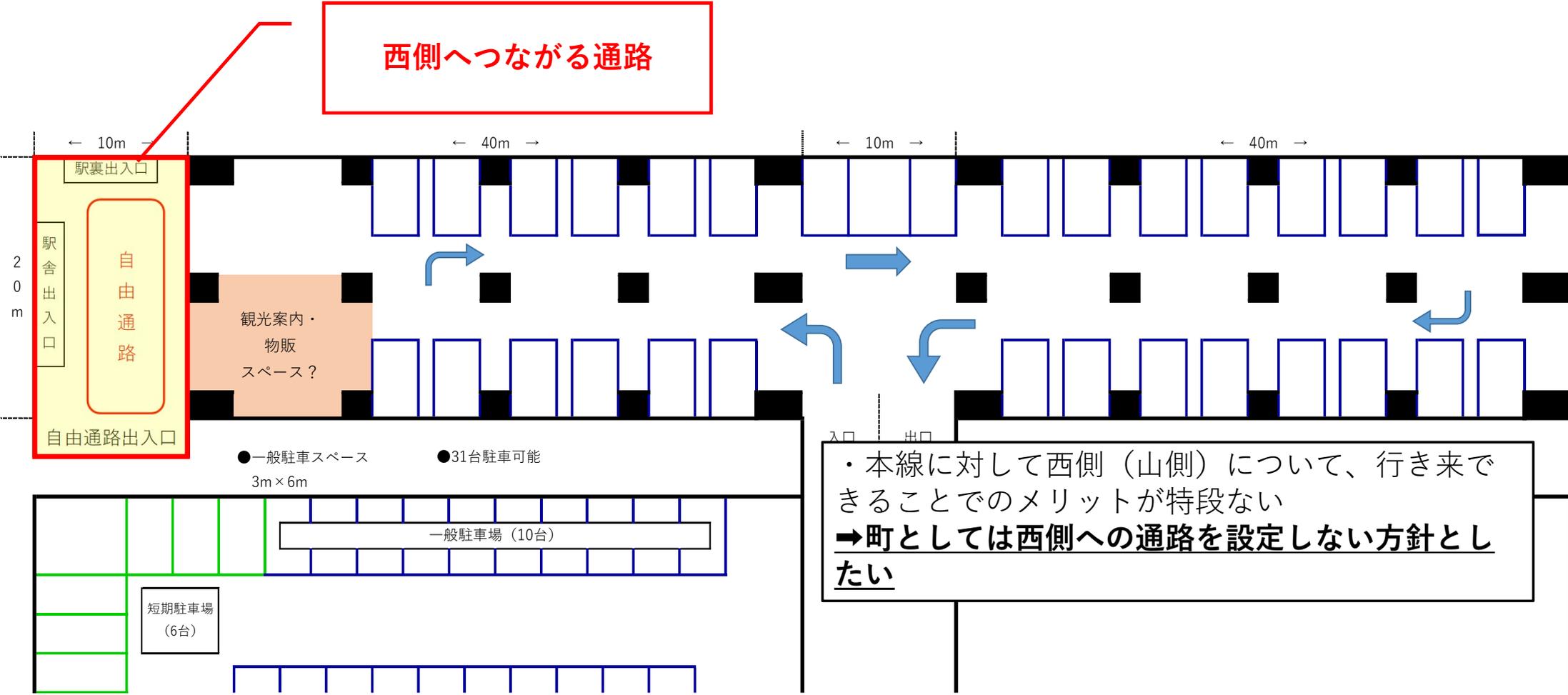
高架下の利用については、鉄道運輸機構、JR北海道との協議が必要



※高架構造駅整備を前提に作成

※高架下利用を検討するための資料であり、各々の規模や位置等が確定したものではありません

3. 西側通路について



・本線に対して西側（山側）について、行き来できることでのメリットが特段ない
→町としては西側への通路を設定しない方針としたい

※高架構造駅整備を前提に作成
 ※高架下利用を検討するための資料であり、各々の規模や位置等が確定したものではありません